

A F P Y だより

Adventure Friendship Program in Yamaguchi

第 1 0 号

H29.1.17

山口県教育庁 義 務 教 育 課

社会教育・文化財課

『学びのサイクル』

「フープリレー」
の実践から



A F P Yでは、様々な活動を通して、「計画→実践→ふりかえり→概念化」のサイクルをスパイラルのように繰り返すことにより、豊かな人間関係を育む基本的な流れがあります。

例えば、「フープリレー(※)」と呼ばれるアクティビティでは、(計画)子どもたちは目標タイムを設定し、クリアする方法を全員で考える、(実践)実際にやってみる、(ふりかえり)「時間のことばかり考えて焦りすぎた」「がんばってるのに」早く、早く” って言われてイヤだった」など活動をふりかえる、(概念化)「焦らないで、お互いが安心できるやり方を考えたらいいと思う。」など、目標に照らしながら今の体験を次にどう生かすかを考える、(計画)「隣の人にフープを渡す時、もらう方の人は、しゃがんで待って見たらどう？」など新たな方法を考える、といった流れが考えられます。

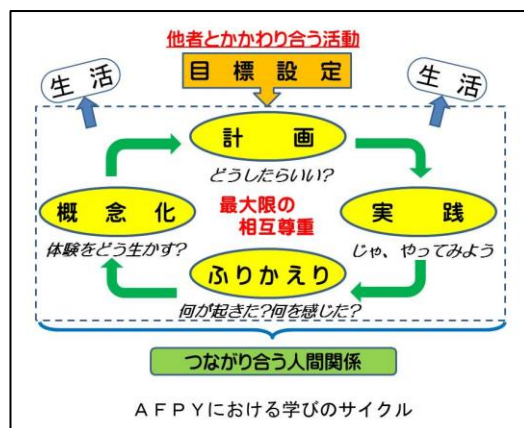
(※)フープリレー:全員が手をつないで輪になり、その腕に通したフープを一周させる活動

学びのサイクル

お互いを尊重し合う関係の中で「(計画)目標達成のための方法を考える」「(実践)実際にやってみる」「(ふりかえり)何が起きたか、何を感じたかを思い出す」「(概念化)どう応用できるか考える」、この4つの過程を循環させることを、A F P Yにおける『学びのサイクル』と呼んでいます(図参照)。

学びのサイクルは1つのアクティビティの中だけで完結するのではなく、日常的に継続させ、体験を通して得られた様々な学びを学校生活に生かしていくことが大切です。

「体験を学びに、学びを生活に」と、学びのサイクルを回し続けることで、子どもたち同士がつながり合う、より豊かな人間関係が育まれます。



指導者としての
学びのサイクル

指導者が自身の学びのサイクルを回すことも意味があります。その日の子どもたちとの出来事を思い出し、どう接したか、何が起きたかをふりかえり、明日の実践につなげます。その繰り返すにより、指導者としての子どもたちへの関わり方が、より良く変化を遂げることでしょう。



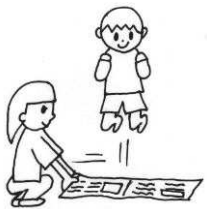
日々の実践の中で、学びのサイクルを意識して回してみませんか。

～社会教育・文化財課のHPで、「心の冒険・サマースクール」「AFPY」の取組をご紹介します。～

AFPY |

検索

親子でふれあいながら、楽しい時間を共有しよう

『押し相撲・引き相撲、空飛ぶじゅうたん』			
教科・領域等	PTA活動	時間	20 分程度
準備物	新聞紙（ペアで 1 枚ずつ）		
活動の実際	<p><u>押し相撲</u></p> <p>1mぐらいあけて、2人が向かい合う。お互いの手のひらだけを突いたり押したりしながら、相手のバランスを崩す。足が動いたり、手のひら以外に触れたりしたら負け。</p> <p><u>引き相撲</u></p> <p>2人で違う向きを向いて横並びに立つ。その時に、内側の足同士をくっつけた状態で内側の手をつなぐ。つないだ手を引っ張ったり、押したりして、相手のバランスを崩したら勝ち。</p> <p><u>空飛ぶじゅうたん</u></p> <p>2人組で新聞紙 1 枚を持ち、1 人が新聞紙の上に乗る。乗っている人がジャンプする間に、もう 1 人が新聞紙を引っ張って進む。スタートからゴールまで新聞紙を破らないように注意する。新聞紙に乗る人を増やすと難しくなる。</p>   		
ふりかえり	<ul style="list-style-type: none"> ・ふれあいながら活動する中で、どんなことを感じましたか？ ・2人で息を合わせて進むために、どんな工夫をしましたか？ ・2人の息がぴったり合ったときに、どんな気持ちになりましたか？ ・これまでに家族で息を合わせるような経験には、どんなものがありますか？ 		
継続的な活用	<p>次のような魅力を伝えた上で、家庭で取り組めるような活動を紙面で紹介し、実践を促す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・笑いや笑顔のあふれる関わりが生まれる。 ・目標達成に向けたふれあいの中でお互いのよさに気づく。 など 		
子どもたちの感想や変容、等	<ul style="list-style-type: none"> ・久しぶりにお母さんと楽しくふれあえてうれしかった。 ・やっているうちに思わず本気になってしまった。親として手加減するというのではなく、対等に活動できたことに子どもの成長を感じた。 		
実践者からのひとこと	<p>子どもは大人が思っている以上に、お家の人とのふれあいを求めていることが分かりました。PTA活動の際に活動例を掲載したパンフレット※を配布し、家庭でも取り組んでいただきました。より多くの家庭で取り組んでもらいたいと願っています。</p>		

（山口市立小鯖小学校 上野 剛先生による実践）



※『やってみよう!家族でふれあいタイム』（平成 27 年度自然体験活動等長期研修成果）

社会教育・文化財課 HP 内「AFPY の手引き」で公開しています。

AFPY の手引き

検索